



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第19主日 A年(2023年8月13日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：列王記上 19章9a、11—13a節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 9章1—5節

福音朗読：マタイによる福音書 14章22—33節

惑いと信頼

三つの朗読から

三つの朗読から見えるのは、あれかこれかと惑う人間の現実です。第一朗読の預言者エリヤは、自分の使命としてイスラエルからバアルの信仰を取り払うことを決意します。カルメル山でバアルの預言者たちに勝利をおさめますが、バアルの礼拝者である王妃イザベルからいのちを狙われます。エリヤは南の荒野へと逃れ、自分の信念がゆらぎ始め、「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください」(列上19章4節)と死を願います。そんな折、神のことばがエリアにささやきかけます。第二朗読でもパウロは惑っています。「どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」(ロマ18章39節)と宣言したパウロは、今日の朗読箇所「同胞のためなら、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよい」(19章3節)とまで語ってしまいます。キリストを否定した同胞であるユダヤ人たちのために悲しみ、苦しむのです。福音朗読では、ペトロに代表されるお弟子さんたちが惑っています。舟は強い風の中、漕ぎ悩んでいます。イエスさまに「来なさい」と言われてペトロは水の上を歩き始めますが、急に恐れにとらわれて、沈みそうになります。イエスさまのもとに行きたいという思いと、風と水による恐ろしい現実の中でペトロの心は揺れ動くのです。しかし、イエスさまは「すぐに手を伸ばして捕まえ」てくれました(マタ14章31節)。千々に乱れる人間のこころの中に、イエスさまはしっかりといてくれるのです。ですから、エリヤのように、またペトロのように助けを求めて叫ぶことが大切となります。

福音の味わい

先週の日曜日は主の変容の主日でしたので少し変則的でした。本来なら先週は、五千人に食べ物を与える話が福音朗読で読まれるはずでした。今日の福音朗読は先週の話の続きとなります。

五千人の人が満腹になったのは「夕方近く」(14章15節 フランシスコ会訳)の出来事でした。『マタイによる福音書』の作者は最後の晩餐の場面を意識していたのかもしれませんが。今日の朗読箇所でも「夕方」(23節 新共同訳)、「夜が明けるころ」(25節)と暗闇の中での出来事が語られます。時間的なつながりは先週と今週とではあまりないかもしれません。むしろ、夜の闇という世俗世界の中で奮闘する初代教会の苦悩が背景にあったのでしょう。

また、旧約聖書が福音書の前ぶれとする視点から考えてみると(これを予型論といいます)、先週の福音の箇所は砂漠でマナを食べた出来事(出16章)と関連し、今週の箇所はイスラエルの民が紅海を渡った出来事(出14章)と結びつくかもしれません。

福音朗読の二つの箇所をあげてみましょう。

28節：主よ、あなたでしたら、……。

直訳は「主よ、もしあなたなら、わたしが水の上をあなたの前に行くように命じてください。」です。「もしあなたなら」は、二つの理解の可能性を秘めています。一つはペトロが湖上の人影をイエスかどうか疑って「主よ、本当にあなたでしたら」という意味と、「主よ、あなたでしたか、では水の上をあなたの前に行くようにわたしに命じてください」という意味です。恐らく後者の方の理解がよりふさわしいでしょう。なぜなら、お弟子さんたちは後にイエスを「あなたは神の子です」と信仰告白するからです(32節参照)。しかも、26節では、イエスさまのことを「幽霊」だと「怯え」(フランシスコ会訳)ます。つまり、イエスさまを幽霊だと判断したのではなく、むしろ判断力が鈍り、幽霊のように見てしまったのです。お弟子さんたちは恐怖のあまり、信仰が弱くなってしまっているのです。お弟子さんたちに恐れを生じさせたのは「強い風」と「水」です。「来なさい」と呼びかけるイエスさまの方を向き続けていればよかったのですが、恐れで視線を足下の水に向けてしまって、「沈みかけ」30節)てしまうのです。

31節：信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。

「疑う」はギリシア語でディスタゾーといいます。これは「二度」とか「二重」を表すディスタということばから派生した動詞です。元来の意味は「あることに関して二番目の(別の)考えを抱く」となります。そこから、「疑う」という意味が生まれていきました。

ペトロは水の上を歩いてイエスさまのもとに行きたいと単純に願ったのでしょう。しかし、「強い風に気がついて怖くなり」ました。ペトロの中に生じた、行きたいという思いと、怖いという思いの二つが生じたのがディスタゾーの状態となります。しかし、ペトロは「主よ、助けてください」と叫ぶことができました。それはペトロをはじめとするお弟子さんたちに小さな信仰(イエスさまを信頼するところ)があったからです。